

山梨県立笛吹高等学校

CS 便り

令和 8 年 7 月 第 1 号

笛吹高校学校運営協議会事務

4 月 24 日(金)、今年度の第 1 回学校運営協議会(コミュニティ・スクール 通称 CS)が笛吹高等学校で開催されました。各委員による自己紹介、校長より学校運営協議会の運営等について説明があり議事に先立ち会長に山本様、副会長に三枝様が選出されました。その後、議事に沿って協議が行われました。



【学校運営協議会メンバー】

会長	山本 憲一	山梨県建設業協会業務部 部長	委員	萱嶋 泰成	山梨学院短期大学教授
副会長	三枝 則子	防災ブレーメン代表	委員	望月 栄一	笛吹市教育長
委員	佐野 宏	地域代表(下平井地区)	委員	小澤 宏之	笛吹市総合政策部部長
委員	中村 正仁	令和8年度PTA会長	委員	網倉 基充	笛吹市内で法律事務所を運営する弁護士
委員	山下 政樹	笛吹高等学校同窓会会長	委員	鈴木 駿一	石和温泉旅館協同組合副理事長
委員	廣瀬 志保	本校校長	委員	飯沼 久裕	笛吹市立石和中学校校長
委員	青野 孝文	本校教務主任	委員	渡辺 政子	笛吹市立石和東小学校校長
委員	田中 健史朗	山梨大学准教授			

【議事について】

はじめに、「令和 8 年度山梨県立笛吹高等学校学校運営基本方針」について廣瀬校長より説明を行い、委員の皆様による審議の結果、承認されました。本校は文科省より指定を受けている研究指定校として探究活動や DX の推進を通して生徒一人ひとりの可能性を伸ばす質の高い学びを実現するとともに、安全・安心で心理的安全性の高い学校づくりを進め、地域や家庭と連携しながら主体的に未来を切り拓き地域社会に貢献する人材の育成を目指すことを説明しました。

続いて、「令和 7 年度学校評価報告書」について矢崎教頭より説明、DX ハイスクール事業の一環として地元企業である(株)YSK e-com や山梨大学の教授を講師に迎え、生成 AI に関する講演会を実施したことや、CBT 方式による学力分析に取り組んだことを報告しました。また、いじめ防止の取組として外部講師によるストレスマネジメント講演会を実施したほか、キャリアデーを設け、生徒一人一人が将来の進路や生き方について考える機会を充実させる取り組みなどを紹介しました。

さらに、「令和 8 年度学校評価計画書」では、学びの基礎診断の診断結果を活用し、生徒それぞれの苦手分野に応じた家庭学習を推進することや、農場のクラウド化を進める計画について説明しました。土壌の pH や温度、湿度などのデータをクラウド上に蓄積し、生成 AI やデータサイエンスを活用して作物の生育を探究する学習を展開していく予定です。

委員の皆様からは、「ICT を活用した学習の様子をぜひ見てみたい」「生徒が個別に学習をオンラインで実施できるため、教職員の負担軽減にもつながる」といったご意見をいただきました。また、出身中学校へ生徒が出向いての高校説明会の実施や、卒業後の進路モデルを具体的に示すことが、中学生や保護者への効果的な情報発信につながるとの提案も出されました。

【各分科会の協議内容】

昨年の令和7年度の提言から挙げられた課題1～3について協議した。



〔課題1〕 魅力ある学校づくり

〔課題2〕 保護者・地域への情報発信

〔課題3〕 持続可能な地域連携とコーディネーターの育成

【地域連携チーム】

地域連携分科会では、本校の探究活動「笛吹グローバル」について説明し、生徒が地域課題の解決に向けて主体的に学ぶ取組を紹介しました。委員からは、生徒の主体的な学びや成長が見られる一方で、活動内容が地域住民に十分伝わっていないのではないかと意見が出されました。また、「笛吹市をモデル地域として地域とのつながりを深めることが重要」「生徒が制作したキャラクターや商品は、デザイン登録など知的財産の保護を検討した方がよい」等の助言がありました。さらに、「公民館を活用した販売会や成果発表会を開催すれば、地域住民との交流の機会になる」との提案もありました。今後は、「高校生の探究活動の場を地域でどのように支えていくか」を検討します。

【評価検証チーム】

評価検証分科会では、「保護者対象アンケートには保護者が評価しにくい項目があり、学校の様子が十分に伝わっていないのではないかと」の意見が出されました。また、「保護者・地域への情報発信は十分とは言えず、伝え方の工夫が必要である」との指摘があり、新たに BLEND を活用した情報発信や学校行事とアンケートを連動させる方法が提案されました。さらに、「教員が学校評価の内容を意識して取り組めるよう、年度当初に評価項目を再確認しておくことが重要である」との助言もありました。加えて、教職員の業務量管理や健康確保の在り方についても意見交換が行われました。今後は、BLEND の活用をさらに工夫するとともに、保護者や地域への情報発信の充実に努めていくことを確認しました。今後は、学校評価アンケートの設問内容や情報発信の効果について検証し、より実態に即した評価の在り方について協議を深めます。

【魅力化発信チーム】

魅力化発信分科会では、本校の学科再編や情報発信、地域連携について協議しました。学科再編では、総合学科1学科とし、生徒の多様な進路希望に対応できるよう、普通科の学びやスポーツサイエンスなど魅力ある系列づくりを進めていくことが提案されました。また、保護者や地域の皆様に本校の取組をより広く知っていただくため、広報誌への掲載や観光商工課との連携について意見が交わされました。さらに、野球部やボランティア部が実施した温泉街清掃活動を継続的な地域貢献活動として発展させる提案や、部活動の魅力向上、大学生を含めた若手コーディネーターの育成についても話し合われました。今後は、学科再編に向けて学科の特色や教育内容の具体的な方向性について検討するとともに、地域や中学生、保護者への分かりやすい情報発信を強化していきます。

【生徒育成チーム】

生徒育成分科会では、生徒の人間関係づくりや自己肯定感の向上、地域とのつながりを通じた成長について協議しました。学校からは、いじめ事案について組織的な対応を行っていることが報告されました。その一方で、SNS上のやり取りや友人同士の伝聞によるトラブルが増加し、人間関係が複雑化している現状について共有されました。委員からは、「生徒が自ら考え、対話を通して課題を解決する力を育てることが大切である」「ストレスへの対処方法や心の健康について学ぶ機会も必要ではないか」といった意見が出されました。また、地域でのボランティア活動や花壇整備、バラの育成活動などに参加することで、地域の方々との交流が深まり、自己肯定感や社会性の向上につながるのではないかと提案もありました。今後は、心の育成をテーマとした講演会やワークショップの実施を検討し、生徒がストレスへの対処法や自己理解を深める機会の充実に努めていきたいと思いをします。

今後も学校運営協議会でいただいた貴重なご意見を学校運営に生かし、地域・家庭・学校が連携・協働しながら、生徒一人ひとりの成長を支える魅力ある学校づくりを進めてまいりたいと思いをします。

今後のCS会議の予定

第2回	令和8年	7月22日(水)
第3回	令和8年	10月6日(火)
第4回	令和8年	12月21日(月)
第5回	令和9年	2月18日(木)